

# 令和6年度 学校評価書

令和7年3月3日

福生市教育委員会 殿

福生市立福生第二中学校

校長 平井 貞昭 印

## 1 今年度における重点的な取り組み

### (1) 授業力の向上

全教員が、令和3・4年度市・研究奨励校として取り組んだ研究テーマ「主体的に学ぶ生徒を育てるための工夫 ～生涯にわたって能動的に学び続けられる力を育成するために～」に基づき、福生二中スタンダードを活用し、更なる授業改善を行う。

- ・各教科に応じた個別最適な学習に資する授業を行い、主体的な学習を図る。具体的には、授業のねらいを明確にし考える時間を確保し振り返る授業と ICT を活用した協働的な学びを充実させる等の授業スタイルを確立する。
- ・この取組を通して ICT を活用した生徒一人一人の学習状況の把握、またそれに基づき複線的な学習が可能となる課題の提示、さらに input 中心の授業から output 中心の授業への転換を図る。

### (2) 健全育成

令和4・5年度不登校児童・生徒支援調査研究校として「魅力ある学校づくり」をめざし、研究テーマ「一人一人の生徒が夢や希望をもって生活する学校づくり」のもと、レベルアップセットを活用し、教師との信頼関係の確立、不登校の未然防止等に取り組む。

- ・「対話」による生徒との信頼関係を基本とした指導の確立をめざす。生徒の思いや家庭状況等を深く理解することで生徒との信頼関係を結ぶ。
- ・「魅力ある学校づくり」の取組として、生徒の自治的な活動を支援し、「絆づくり」に取り組む。

### (3) 教職員の資質・能力の向上

- ・目標・ねらいを理解・共有した教育活動を展開する。
- ・人権感覚と深い生徒理解に基づいた指導を実現する。
- ・地域社会の思いや願いを受け止めることのできる教員を育成する。

### (4) 二中校区の連携推進

- ・校区の教員が一堂に会する機会を2回設定し、学区内の児童・生徒の実態に応じた具体的な取組を実施する。今年度は、部活動見学会及び体験授業を実施する。

## 2 自己評価の総括

### (1) 授業力の向上

生徒による授業アンケート「授業では、自分の考えを共有したり話しあったりして、課題を解決する取組がある。」肯定的評価が86.1%、同じく「私は、授業での課題や分からなかったことを諦めずに、粘り強く取り組み、解決したり、理解しようとしている」の肯定的評価が76.7%であった。

### (2) 健全育成

- ・生徒アンケート項目「学校には楽しく通っている」の肯定的評価が85.0%に対して、同様の保護者アンケート項目の肯定的回答が83.8%、「学校には自分が安心して生活できる場所がある。」の肯定的評価が86.1%に対して、同様の保護者アンケート項目の肯定的回答が84.6%とほぼ一致していることから、全体的に発達支持的生徒指導の推進や対話による生徒理解に成果が見られる。今後も保護者との協力関係を深めて魅力ある学校をめざす。
- ・学年ごとに「絆づくり」の取組を実施した。いじめアンケートとともに行う学校生活アンケートにお

いて数値の低かった回答に着目し、次学期の活動を計画し実行する年間3回のPDCAを繰り返した。取組の結果、新規不登校出現率が3.0%と昨年と同様に比較的低い割合であった

### (3) 教職員の資質・能力向上

- ・新規採用及び転入者に対し、「企画・起案様式」を用いた起案等の考え方を浸透させることができた。
- ・人権課題に関する研修は順調に実施され教職員の意識は高まっている。男女混合名簿の実施については定着し、多様性についての理解及び確かな生徒理解に基づく生徒指導が実施された。特にネクタイ着用のルールの改定は、生徒の主体的な取組で行われた。
- ・美化ボランティアを11月末に実施した。生徒約100名参加し、加美平グラウンドの清掃活動を行った。防災教育は、避難所運営に関することを予定していたが、自衛隊による「自助」の能力を身に付ける生徒参加型イベントは、1年生を対象に1月に実施することができた。

### (4) 二中校区の連携推進

交流会前に管理職・幹部職員間で会議を行い、年間2回設定された交流会を実施し、校区として取り組むべき課題について意見交換することができた。次年度に向け管理職・幹部職員間で会議を行い、交流会で出された課題等を整理し次年度の活動について検討することができた。

## **3 自己評価に対する改善策**

### (1) 授業力の向上

昨年度に比し、それぞれ肯定的評価の割合は高まった。最終的な目標である主体的な学習の実現については、今後も取組を継続していく必要がある。特に「個別最適な学び」についての工夫が重要である。さらに、次年度は「学習のめあてを提示するのではなく引き出す指導」に取り組ませる。

### (2) 健全育成

- ・保護者アンケート「教職員は、教育公務員についてふさわしい人権感覚をもち、子供及び保護者に適切に接している。」について肯定的評価は82%である。コンプライアンスに基づいた対応等、さらに高い評価が得られるように努力が必要である。
- ・生徒アンケートによると、本校の二大行事への満足感は高く、また生徒会活動への参加も意欲的であることが分かる。今後は、より主体的な活動になるように各担当が工夫を重ねていくことが必要と考える。

### (3) 教職員の資質・能力向上

- ・「企画・起案様式」への記載については「魅力ある学校づくり」の目標を意識させたことで形骸化を避けられた。次年度も「魅力ある学校づくり」を推進していくための新たな目標設定と手だてを盛り込むように指導する。
- ・次年度も、教員に多様性を意識させ、時代に合わせて生活のきまりを見直し、教員の人権感覚を常に更新する必要がある。次年度以降も継続的に研修を実施していく。
- ・予定していた美化活動、防災教育、学校評価等を滞りなく実施することができた。CSの活動内容に対応して担当教員を割り当てることは管理職以外の教員の意識を高められ地域からも好評である。

### (4) 二中校区の連携推進

年度末に各校の校長、教務主任、生活主任が集まり分科会で協議されたことを具現化するための協議会を開催した。次年度以降もこのような場を設定し、意思決定と取組の具体化を確実に行う。

## **4 学校関係者評価の総括**

今年度も、昨年度同様にCS委員会の評価を「関係者評価」として扱う。CS委員9名に「本校のめざす生徒の姿」4項目、加えて「地域とともに歩む開かれた学校づくり」という視点で評価をいただいた。

また、学校運営について校務分掌ごとにも評価をいただいた。

評価についての標語は、

- A：十分に満足できる      B：おおむね満足できる  
C：やや課題がある      D：おおいに課題がある      である。

令和6年度「生徒及び保護者による学校評価アンケート」の結果を踏まえて      (数字は回答数)

項目	校内組織名	評価			
		A	B	C	D
ア	魅力ある学校づくりについて	5	4	0	0
イ	考えを深め豊かに表現する生徒の育成について	2	3	4	0
ウ	生命を尊重し心身を鍛え健全に生活する生徒の育成について	5	3	1	0
エ	自分自身と自分が関わる全ての人を大切にする生徒の育成について	4	5	0	0
オ	将来を見据え見通しをもって学び行動する生徒の育成について	4	3	2	0
カ	地域と共に歩む開かれた学校づくりについて	1	4	4	0

令和6年度「職員による校務分掌自己評価」の結果を踏まえて      (数字は回答数)

項目	校内組織名	評価			
		A	B	C	D
1	教務部	2	5	2	0
2	生活指導部	4	5	0	0
3	進路・学習指導部	2	3	4	0
4	体育的行事委員会	3	6	0	0
5	文化的行事委員会	3	6	0	0
6	個別支援委員会	3	3	3	0
7	研究推進委員会	2	4	3	0
8	1 学年	3	3	3	0
9	2 学年	2	7	0	0
10	3 学年	3	5	1	0

今年度、昨年度に比べ、保護者アンケートでは、概ね良好な評価をいただいた。特に子供が楽しく学校に通っていると多くの保護者の方に回答していただいた。また、教員が丁寧に対応していたり、努力していたりすることを評価していただいた。同時に、CS委員からも、学校が改善されたことについて評価をいただき、教員の努力についても評価していただいた。一方、保護者の回答と生徒の回答の割合に乖離が見られる項目がいくつか見られた。この点については、学校の発信力に問題があると考えられるので、学校ホームページやtetoruでの配信を積極的に行っていく必要がある。

その他、問題及び改善すべき点として、以下の内容があげられている。

- ・「授業が分かりやすい」の割合が低い。
- ・家庭学習の取組が大きな課題である。
- ・地域の行事への参加が少ないのは問題です。
- ・保護者への学校の取組の啓発が弱い気がします。
- ・自主的に自分自身で振り返りがあるとよいと思います。
- ・CSの活動を保護者にもっと発信していく必要がある。

## 5 学校関係者評価に対する改善策

学校関係者評価において、自己評価及び課題解決の方策について一定の理解を得たと考える。令和7年度は特に以下のことがらについて確実に取り組む。

### (1) 「魅力ある学校づくり」の追究

令和4・5年度 不登校児童・生徒支援調査研究校 としての研究成果を踏まえ、令和7年度は、発達支持的生徒指導に基づいた指導力の向上 ～「できた・分かった・頑張った」を実感できる学校づくり～ に取り組んでいく。そして、令和3・4年度 福生市研究奨励校として取り組んだ成果を土台に授業改善を一層進めることで、どのような生徒でも主体的に学習に取り組むことができるよう、「魅力ある授業づくり」を学校の基盤として「魅力ある学校づくり」を追究していく。

### (2) 信頼される教師の育成

特別な支援を必要とする生徒への対応として、生徒及び保護者との信頼関係を一層築き、学校と家庭の両輪で指導にあたる。そのためにも、確かな生徒理解に基づく発達指示的生徒指導を強力に進め、教員の人権感覚を磨く。また、不登校巡回教員を中心に不登校対策を図り、不登校対策等についてのOJTを充実させ、教員の育成を図る。

## 6 総括的な学校評価

令和7年度以降も自己評価、関係者評価で明らかになった課題の解決に取り組んでいく。今年度は、発達支持的生徒指導を踏まえた教育活動に重点をおき、人権感覚を磨きコンプライアンスに基づいた指導を行うとともに、指導指針に定められた手立て等を確実に行うことができた。次年度は、引き続き以下の点を重視し学校運営に取り組んでいく。

### (1) 授業改善の徹底（授業における「居場所づくり」）

- ① 単元や題材のまとまりを重視し何をどのように学ぶかを確認する。授業のねらいを引き出し、生徒が考える時間を確保し、学び合いの機会を取り入れる。また、何ができるようになったかを振り返る等の活動を通して、生徒の意欲を高め主体的な学習を促す。
- ② 各種調査等により一人一人の学習状況を把握し、ICTを効果的に活用するなどして授業改善を行い、それぞれの学習の進捗状況等に応じた取組が可能となる「個別最適な学び」を実現する。また、学習の進捗状況からこれまでの指導を振り返り、絶えず、授業改善を繰り返し、指導と評価の一体化を推進する。
- ③ 各教科等における個別最適な学びの成果を協働的な学習での学び合いや探究、発表の活動に生かし自らの考えをより深め、新たな学びへと継続的に学習する力の育成を図る。
- ④ 各教科の実態に応じて、帯活動として小テストを実施する。また、学校行事等の授業時間外でのALTの活用を推進する。

### (2) 生徒の主体性を重視した学年・学級経営、学校行事、生徒会活動（「絆づくり」）

- ① 学年集会を計画的に行い、互いに認め、褒める活動はもとより、失敗や間違いについても皆で考え、支え合い、創造する機会を意図的かつ効果的に設け、自己指導能力を育む。
- ② 学校行事では、生徒に自己決定の場を与え、生徒が主体的に取り組めるよう指導する。
- ③ 生徒会活動を活性化し、生徒の自治意識を一層高める。また、朝読書を基盤とした主体的かつ充実した読書活動の継続、ふっさ電子図書館の案内により読書冊数の増加を図る。

### (3) 生徒理解、特別支援、学校不適応対策について

- ① OJTを充実させ教員の人権感覚を磨くとともに、思い込み、決め付けによる指導によらず、特別支援教育、不登校対策等について造詣を深めさせ、深い生徒理解に基づく生徒及び保護者との信頼関係を構築し、生徒がより良い生き方を追究するように指導・助言できるようにする。

- ② 個別支援委員会（校内委員会）での情報共有を行い、特別支援教室及び日本語学級と通常級の連携を保ち、全教員が一体となった支援を行う体制を維持する。
- ③ 不登校対応巡回教員を、学校不適応・不登校対策担当とし問題解決の推進役とし、校内別室での指導体制を構築する。また、特別支援教育コーディネーターや外部機関と連携し、対応策を立案し支援の充実を図る。

(4) CSとして

- ① 放課後学習支援（水曜学習教室）及び長期休業中の学習教室の支援員を地域から募るとともに参加者の拡大を図る。
- ② 「ふたばサポートチーム」（CS委員会）と連携し健全育成の取組を活性化する。また、「仕事の話聴く会」を企画・運営する。
- ③ 地域の一員としての自覚をもたせるため、防災訓練において中学生の参加を推進する。

(5) 二中校区の連携推進

中学生による小学校の運動会のボランティア、部活動見学会、体験授業を実施する。また、二中学区交流会で提案された取組について確実に具体化し一貫性ある指導を実現する。